

# 土木と社会セミナー

第一回（10月9日）@W2号館2F自習室

「眞実と虚偽をどう見分けるか～水俣病報道を例に～」



ゲスト：  
山口和也さん / 熊本日日新聞社編集局次長

世界でも未曽有の被害を発生させた水俣病は、公式確認から59年たった今も解決していません。この問題の発生と被害拡大の過程では、さまざまな誤った見解や偏見、差別が飛び交い、眞実を見にくくしています。それでも被害者や支援者をはじめとした闘いとメディアの報道によって次々と眞実が明らかにされていました。水俣病事件史は眞実と虚偽の相剋（そうごく）の歴史でもあったといえましょう。水俣病問題は原発事故をはじめ現代社会のさまざまな問題にも通じる教訓を私たちに提示しているのではないかでしょうか。

第二回（10月16日）@W2号館2F自習室

「土地の値段は誰が決めているのか？～不動産鑑定と街づくり～」



ゲスト：  
山本剛司さん / 日本ヴァリュアーズ株式会社  
資産評価部シニアマネージャー

皆さん、「今、土地を買っておけば必ず値上がりする」という話を聞いたことはありませんか？これは、バブル期にあった「土地神話」の話です。土地の値段は、街づくりの中で大きな役割を担っており、それを決めるることは重要な仕事です。土地の値段を「誰が」「いつ」「何のために」「どうやって」決めているのか？なぜ「土地神話」は生まれたのか？その結果、何が起きたのか？といったことを紹介しながら、一見、関係のないように見える不動産鑑定と土木（都市・交通計画）分野との深い関わりを皆さんに伝えたいと思います。

第三回（10月23日）@椎木講堂302講義室

「日本の物流を支える高速道路～道路を支える技術～」



ゲスト：  
福永靖雄さん / 西日本高速道路株式会社  
九州支社保全サービス事業部長

全国の高速道路は、名神高速道路が今年で全通50年を迎えたのを代表に年々経過年数が増加してきており、高速道路の経年劣化に関するリスクの高まりが懸念されてきています。また、高速道路は、日本の道路・鉄道のわずか1%に過ぎませんが、国内陸上貨物輸送量（トンキロ）における高速道路の比率は約50%であり国内輸送の大動脈となっています。高速道路の機能を維持し守るために、土木全般や他分野の技術が使われていることを紹介し、「土木技術者として必要なこと」をお話します。

第四回（10月30日）@W2号館2F自習室

「人や社会の参謀になりたい～建設コンサルタントの面白さ～」



ゲスト：  
木俣順さん / 中央復建コンサルタンツ株式会社  
総合技術本部副本部長

皆さん、「建設コンサルタント」という職業をご存じですか？環境破壊や談合など、ややブラックなイメージがある「建設」に、怪しげなアドバイスで金儲けしているイメージがある「コンサルタント」。一般の人が聞いたら敬遠するような響きを持つ「建設コンサルタント」という職業、私は大好きです。同じ仕事でも、それに関わる「人」と「人」の関係から、全然違う成果が生み出されるという面白さがあります。私がなぜ学生時代「建設コンサルタント」を目指したのか、様々な業務と「人」との出会いをお伝えしたいと思います。

第五回（11月6日）@W2号館2F自習室

「気象XOO」



ゲスト：  
山下啓一さん / 一般財団法人日本気象協会  
九州支社副支社長

気象会社ってどんな仕事をしているの？とよく質問されます。が一言ではなかなか言い表せません。つまり気象ビジネスはノンセクションなのです。世の中に気象が関係しないものは無いと言っても過言ではありません。しかし、気象単独ではビジネスになりません。今回は気象と〇〇のコラボレーションで生まれるあらゆる可能性の一部分を実例を交えてご紹介したいと思います。気象の立場・〇〇の立場の双方におけるご自身の将来を思い描きながらお聞き頂ければ幸いです。

第六回（11月13日）@W2号館2F自習室

「九州-アメリカ-スイス-東京～土木からデザインを目指して～」



ゲスト：  
竹林知樹さん / 大成建設株式会社本社設計本部  
専門技術部環境デザイン室

九日の土木を卒業してから八年が経とうとしています。その間、アメリカでのデザイン留学を経てスイスでランドスケープデザインの仕事を始め、そして今は東京で土木・建築・都市・ランドスケープの専門領域を横断したデザインをベースとした総合的な建設の仕事と、一貫しつつも目まぐるしく拠点を変えました。私が皆さんと同じ二十歳の頃に考えていたこと、今ものづくりの現場で感じていること、これからどんなことをしていきたいか、についてお話しします。皆さんのが今持っている可能性について考える機会となればと思います。

第七回（11月27日）@W2号館2F自習室

「河川とエネルギーとバスはつながっている」



ゲスト：  
内村圭祐さん / 熊本市職員

組織の中にどっぷりかかると、ついひとりよがりになります。いかに良い意味で“染まらないか”、社会と交わりを求める、常に何が求められているか考え方行動に移す、という部分は普遍的なものだと思います。このようなことを、非常にめずらしい部類（ただのマニア！？）の人間が、できるだけわかりやすく具体的に示すことで、土木という分野でこれから活躍される皆さんへのメッセージになればと思います。

第八回（12月11日）@W2号館2F自習室

「土木出身の経済調査マンがみてきた九州の姿」



ゲスト：  
八尋和郎さん / 九州経済調査協会  
事業開発部長兼BIZCOLI館長

土木と関係のないシンクタンク業界に入ったところ、それはそれは苦労の連続。知らない理論に知らない言葉。とにかく恥をかいてなんぼのもの。それでも時は過ぎていく。80年代末のバブル期から失われた十年を経て地方創生の時代へ。多様な調査経験と運も味方に、ついにベテラン研究員へと思ったら、今まで図書館の館長へ。土木出身の経済調査マンがみてきた九州の姿を面白く解説します。

第九回（1月8日）@W2号館2F自習室

「防災国際協力におけるインフラストラクチャーの役割」



ゲスト：  
永石雅史さん / 九州大学国際交流推進室 特任教授

国際防災協力においては災害大国である日本は長年の防災の経験や技術を生かしながら途上国支援を行っており、近年防災協力は途上国支援の一つの大きな潮流になってきています。本講義では日本の国際協力の特徴を俯瞰しつつ、防災におけるインフラストラクチャーの役割、特に「防災投資」や「よりよい復興（Build Back Better）」について一緒に考えてみたいと思います。

第九回（1月22日）@W2号館2F自習室

「国連と九州の環境技術」



ゲスト：  
星野幸代さん / 国連ハビタット  
アジア太平洋本部補佐官

国連ハビタットは、開発途上国における自然災害や戦争災害後の住宅・インフラ分野の復興や各国に対する都市政策や都市計画の提言やお手伝いをしています。一方、地元九州の自治体や民間企業の有する優れた技術やノウハウをアジア諸都市に移転・紹介し、それら都市の抱える課題の解決に資する事業も展開しております。それらをご紹介するとともに、国際機関で日本人として働くということについても、皆さんとともに考えていきたいと思います。